

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 12 日現在

機関番号：32689

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2012～2013

課題番号：24820014

研究課題名(和文) 16 - 18世紀の東地中海世界における自然災害史の研究

研究課題名(英文) Research on Natural Disasters in the 16th-18th Century East Mediterranean World

研究代表者

澤井 一彰 (SAWAI, Kazuaki)

早稲田大学・イスラーム地域研究機構・講師

研究者番号：80635855

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円、(間接経費) 690,000円

研究成果の概要(和文)：本科研の研究成果としては、東地中海世界の中心都市であったイスタンブルにおいて16世紀から18世紀にかけて発生した複数の自然災害の実態と、その後の復興の過程を詳細に解明したことが挙げられる。具体的には、1509年のイスタンブル大地震、1563年のイスタンブル大洪水、そして1766年のイスタンブル大地震について、研究報告を合計5回行い、それらを活字にした論文を合計4本執筆した。
海外の研究機関に所蔵されている関係史料の調査も積極的に行い、イスタンブルの首相府オスマン文書館、メトロポリタン美術館、パリ国立図書館、ヴェネツィア国立文書館、ライデン大学図書館から多数の史料を収集することができた。

研究成果の概要(英文)：I elucidated the actual situation of the natural disasters that occurred in Istanbul from the 16th century to the 18th century in this Grant-in-Aid for Research Activity start-up. Specifically, I performed five times of presentation and wrote four articles about the earthquake occurred in Istanbul in 1509 and 1766, and also about the deluge occurred in Istanbul in 1563. I also researched historical documents related to this subject, actively. As a result, I could collect so many historical records from Basbakanlik Osmanli Arsivi(Istanbul, Turkey), Metropolitan Museum(New York, USA), Biblioteque Nationale(Paris, France), Archivio di Stato di Venezia (Venice, Italy) and Leiden University(Leiden, Netherlands).

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：東洋史

キーワード：環境史 オスマン朝 イスタンブル 地中海世界 自然災害史 東洋史 西洋史 トルコ

1. 研究開始当初の背景

従来の自然災害史の研究においては、主として自然科学系の諸分野が研究全体を牽引する役割を果たしてきた。

例えば、過去の地震や津波についての研究では、地層や堆積物を調査することによって災害の規模が推測され、気候の寒冷化の研究においては極地の氷柱ボーリングや、巨樹の年輪調査などによって、ある時代の気温が推定されてきた。こうした自然科学分野の研究成果によって、我々は過去に発生した地震のマグニチュードや、津波の高さ、あるいは現在と過去との気温差などを具体的な数値として知ることが可能となった。

しかし、一方で、こうした自然科学分野の成果からは、「同時代を生きた人々の声」は聞こえてこない。すなわち、過去のある時代の気温が現在よりも 0.1 低かったことを知ることも重要であるが、それと同時に、そうした数値上の微細な変化を当時の人々がどう感じ、どのような影響を被り、それをいかにして克服したのかをあきらかにすることも重要な課題であろう。

こうした問題関心から、報告者は、過去に生きた人々が残した記述史料を用いる歴史学の手法によって、人間が自然災害とどのように向かいあい、その被害からいかにして立ち直ったのかということをも具体的に解明することを目指した。

2. 研究の目的

報告者は、「16 世紀後半の「東地中海世界」における食糧問題とオスマン社会」と題する博士論文を完成させた後、同論文の一部でも検討した環境史研究に本格的に着手した。本研究の目的は、その第一歩として、地中海世界東部における自然環境の諸相をあきらかにするため、同地域において発生した自然災害の実態と、被害からの復興の状況を解明することである。

自然災害史の研究は、環境史の他のテーマと同様に自然科学分野が大きく先行してきた。一方で本研究は、同時代に作成された一次史料をもとに、当時の人間が自然災害をどのように捉え、またその被害からいかにして復興を遂げたのかという点に着目し、地中海世界東部における「人間と自然環境との関係性」をあきらかにするべく実施された。

3. 研究の方法

上述の研究目的を達成するために、本研究においては、16 - 18 世紀にオスマン朝において作成された一次史料を渉猟し、そこに記された様々な記録から自然災害(とくに大地震と大規模水害)についてのデータを抽出して、分析するという手法を用いた。オスマン朝期に作成された大量の記録は、幸いにして大きな戦火に遭うこともなく、公文書を中心に膨大な量の文書史料が伝世している。とりわけ、イスタンブルにある首相府オスマン文書館

に所蔵されている 1 億 5 千万点以上とも言われる史料群は、まさに環境史研究のための宝庫であるといえる。

本研究においては、こうしたオスマン朝の史料に加えて、オスマン朝を訪れたヨーロッパ人旅行者による旅行記や、オスマン朝に滞在した各国外交官の報告書、日誌なども用いつつ、16 - 18 世紀の東地中海世界における自然災害の実態と、復興への足取りを具体的にあきらかにした。

4. 研究成果

博士論文を執筆した後の新しい研究テーマとして自然災害史研究に本格的に取り組んだ本研究においては、16 世紀から 18 世紀にかけてのオスマン帝国、とりわけ都として発展していたイスタンブルにおいて発生した巨大地震や大水害についての実態を詳細にあきらかにすることができた。具体的には、本研究の成果によって 1509 年のイスタンブル大地震、1563 年のイスタンブル大洪水および 1766 年のイスタンブル大地震について、多くの新知見を共有することが可能となった。この意味において、本研究は、オスマン帝国史研究の分野では、これまでほとんど取り扱われることがなかった自然災害史研究に、第一歩を踏み出したものであると言える。

さらに本研究は、オスマン帝国に限らず従来の自然災害史研究においては等閑視されがちであった、災害後の復興の状況やその過程についても、同時代史料を用いつつ、かなりの程度あきらかにすることができた。この点もまた、本研究の大きな成果のひとつではないかと考えられる。

本研究において得られた研究成果は、国内においては自然災害や都市の再編を取り扱った複数の学会(たとえば 2012 年度の歴史学研究会大会や比較都市史研究会)および学術雑誌の特集(たとえば『歴史学研究』No.898 や『歴史評論』no.760)に取り上げられるなど、東洋史という狭い枠組みにとどまらず、広く我が国の歴史学会全体に大きなインパクトを与えたと考えられる。今後は、これらの研究成果を順次、英語ないしトルコ語で報告することによって、国外の学界においても自然災害史研究の重要性を積極的に主張していきたい。

今後の展望としては、以下の諸点が指摘され得る。本研究によって、1509 年および 1766 年のイスタンブル大地震、1563 年のイスタンブル大洪水のようなオスマン帝国の都イスタンブルで発生した自然災害についての基礎的研究は、一定の目的を達成した。しかし、イスタンブル以外の地方都市における自然災害の状況は、いまだ不明のままである。たとえば 1653 年と 1688 年にイズミルで発生した大地震など、イスタンブル以外の都市で発生した大規模自然災害については、今後あらためて検討していかなければならない。

次にイスタンブルに関して、長らくオス

マン帝国の都として栄えたこの街を襲った自然災害は地震と洪水だけではなく。たびたびイスタンブルの街を文字通り灰の山に変えた大規模火災もまた、重要な自然災害として再認識する必要がある。今後は、こうした歴史的な大火とそこからの復興についても別途、考察していきたい。

最後に、本研究による具体的な成果物については、以下に詳細にまとめた。

(1) 学術論文

本研究の具体的な成果物としては、まず4件の学術論文の執筆が挙げられる。2012年度については、1509年のイスタンブル大地震を取り扱った「1509年のイスタンブル大地震とその後の復興 「この世の終わり」と呼ばれた大震災」が『歴史学研究』に掲載された。

また、2013年度の成果としては、「1563年のイスタンブル大洪水 大河なき都市を襲った水害」が『歴史評論』に、「ハラール」と「ハラーム」のはざままで オスマン帝国における発酵食品とアルコール飲料」が『早稲田大学アジア・ムスリム研究所リサーチペーパー・シリーズ Vol.3 食のハラール』に、「オスマン帝国とその「ヨーロッパ」的特性 君主一族・支配者層・臣民の多様性」が『ヨーロッパ文化史研究』にそれぞれ掲載された。

(2) 学会発表

上記の学術論文を執筆するうえで基礎となったのは、2012年度と2013年度に行った複数の学会発表である。まず2012年度は、5月に東京外国語大学で開催された歴史学研究会大会において「1509年のイスタンブル大地震とその後の復興 - 「この世の終わり」と呼ばれた大震災」、6月には早稲田大学で開催された比較都市史研究会において、「1563年のイスタンブル大洪水 大河なき都市を襲った水害」、翌年1月には、早稲田大学で開催された、アジア・ムスリム研究会において、「ハラール」と「ハラーム」のはざままで 発酵食品に見るオスマン帝国のハラール観」と題する学会発表をそれぞれ行った。

2013年度については、7月に國學院大学で開催された地中海学会定例研究会において、「16-18世紀のイスタンブルにおける歴史地震」、10月には、東京外国語大学で開催された「近世イスラーム国家と多元的社会」プロジェクトにおいて、「イスタンブル大震災とその後の復興 1509年と1766年の大地震を事例として」と題した学会発表を実施した。

(3) 史料調査

最後に本研究においては、海外に散在する関係史料の調査、収集も積極的に行った。

2012年度は、イスタンブルの首相府オスマン文書館、ニューヨークのメトロポリタン美術館ワトソン図書館およびパリの国立図書

館において、関係史料の収集を実施した。

同じく、2013年度においても、イスタンブルの首相府オスマン文書館を再び訪問したことをはじめ、夏にはヴェネツィアの国立文書館、冬にはライデン大学図書館を訪問し、史料調査を実施することができた。

以上のような一連の史料調査によって、16世紀から18世紀にかけての、とくにイスタンブルにおいて発生した自然災害についての各種史料を一定程度、入手することができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 4件)

— 澤井一彰、「1509年のイスタンブル大地震とその後の復興 「この世の終わり」と呼ばれた大震災」、『歴史学研究』、査読なし、No.898、pp.154-162、2012年

— 澤井一彰、「1563年のイスタンブル大洪水 大河なき都市を襲った水害」、『歴史評論』、査読なし、no.760、pp.20-34、2013年

— 澤井一彰、「ハラール」と「ハラーム」のはざままで オスマン帝国における発酵食品とアルコール飲料」、『早稲田大学アジア・ムスリム研究所リサーチペーパー・シリーズ Vol.3 食のハラール』、査読なし、早稲田大学アジア・ムスリム研究所、pp.1-20、2014年

— 澤井一彰、「オスマン帝国とその「ヨーロッパ」的特性 君主一族・支配者層・臣民の多様性」、『ヨーロッパ文化史研究』、査読なし、第15号、pp.111-134、2014年

[学会発表](計 5件)

澤井一彰、「1509年のイスタンブル大地震とその後の復興 - 「この世の終わり」と呼ばれた大震災」、2012年歴史学研究会大会、東京外国語大学、2012年5月27日

澤井一彰、「1563年のイスタンブル大洪水 大河なき都市を襲った水害」、比較都市史研究会、早稲田大学早稲田キャンパス、2012年6月16日

澤井一彰、「ハラール」と「ハラーム」のはざままで 発酵食品に見るオスマン帝国のハラール観」、『アジア・ムスリム研究会、早稲田大学早稲田キャンパス、2013年1月31日

澤井一彰、「16-18世紀のイスタンブルに

おける歴史地震」, 地中海学会定例研究会、
國學院大學、2013年7月20日

澤井一彰、「イスタンブル大震災とその後の復興 1509年と1766年の大地震を事例として」, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 共同利用・共同研究課題「近世イスラーム国家と多元的社会」, 東京外国語大学、2013年10月12日

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

澤井 一彰 (SAWAI, Kazuaki)
早稲田大学イスラーム地域研究機構・次席
研究員(研究院講師)
研究者番号：

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：